

科目名称：	レクリエーション活動Ⅱ	
担当者名：	下川 紀美子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
レクリエーションの理論および技術は、円滑な交流の場を提供する力を持っている。レクリエーションの本質を学び、現場に必要な能力である実践力・応用力を高めていく。8種類の屋内外のレクリエーションを取り入れ、自学自習の学習態度を学ぶ。		
授業の達成目標・到達目標		
1. レクリエーション技術を高め、現場で応用する。 2. 自ら活動することにより、レクリエーションの本質に少しでも近づく。 3. プレゼンテーションを通して、それぞれの専攻にマッチしたレクリエーションを提案する。 4. リーダーシップ、フォロアーシップを学び、協調性を養う。 5. 健康、安全に配慮した行動を身につける。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)				100	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 レクリエーションインストラクター	《経験年数1》 20年
	《内容2》 音楽レクリエーション	《経験年数2》 17年
	《内容3》 幼稚園教諭	《経験年数3》 18年
	《内容4》 保育士	《経験年数4》 19年
備考		

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
レクリエーション技術と現場での応用	レクリエーション活動に関する計画・諸準備・援助法・評価法を完全に理解している。	レクリエーション活動に関する計画・諸準備・援助法・評価法を理解している。	レクリエーション活動に関する計画・諸準備・援助法・評価法をおおむね理解している。	レクリエーション活動に関する計画・諸準備・援助法・評価法を理解していない。
レクリエーションの本質	レクリエーションの社会的意義を理解し、自ら活動することができる。	レクリエーションの社会的意義をおおむね理解し、自ら活動することができる。	レクリエーションの社会的意義を理解し、まわりと協働で活動することができる。	レクリエーションの社会的意義を理解していない。
リーダーシップとフォロワーシップ	協調性があり、リーダーとして、フォロワーとしてどちらも完全に行動できる。	協調性があり、リーダーとして、フォロワーとしてどちらも行動できる。	協調性があり、リーダーとして、フォロワーとして、どちらかの立場で行動できる。	協調性がない。
健康、安全に配慮した行動	健康、安全に配慮したレクリエーションの活動実践ができる。	健康、安全に配慮したレクリエーションの活動実践がおおむねできる。	健康、安全に配慮したレクリエーションについて理解している。	健康、安全に配慮したレクリエーションができない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス	シラバスで概要を把握	45分
第2回 マンカラ体験	課題レポート	45分
第3回 ウォークラリーについて	ウォークラリーの基礎的知識	45分
第4回 児童の運動遊び	運動遊びの必要性を知る	45分
第5回 高齢者の運動	高齢者の体力低下の影響	45分
第6回 季節のレクリエーションの計画	事業計画とは	45分
第7回 高齢者のレクリエーションのプログラム	心が元気になる仕組み	45分
第8回 スポーツテンカ体験	スポーツテンカの基礎的知識	45分
第9回 カローリング体験	カローリングの基礎的知識	45分
第10回 プログラム立案について1	プレゼンテーションの準備	45分
第11回 プログラム立案2	プレゼンテーションの準備	90分
第12回 プログラム立案3	プレゼンテーションの準備	90分
第13回 音楽レクリエーション	音楽レクリエーションの効果	90分
第14回 クラフト	クラフト活動の効果	90分
第15回 レクリエーションのまとめ	心が元気になる、健康を維持するためのレクリエーション(まとめ)	90分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、各種レクリエーションの基礎的知識を深めておく。プレゼンテーションは各グループで入念に構想を練ること。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
講姿勢(40%)、コミュニケーション能力(30%)、プレゼンテーション(30%)を100点満点の減点法で評価する。第1回授業にて詳細を説明する。

課題に対してのフィードバック

当該授業中に講評、解説する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。授業時にプリントを配付する。